

月報 2022年 6月30日 No.377

石城山岳会

6月号

四方通信

石城山岳会事務局編集

鬼怒沼山 (2141m)

高原山 (釈迦ヶ岳) 1795m

5月例会山行「官沢 沢登り」

葉山 (1237m)

磐梯山 (1816m) 縦断

6月登山教室 五色沼散策

不忘山 (1705m)

赤城山 (地藏岳、長七郎山、小地藏岳)

蒲生岳 (828m)

武尊山 (2158m)

鬼怒沼山 (2141m)

5月22日(日)・23日(月) 渡辺(敏)

5月22日(日)

5月21日昼過ぎに自宅を出て女夫淵温泉の駐車場に向かったが、途中から雨模様になりひどい降



りになった。その夜は、駐車場で車中泊したが、雨はやまず降り続いた。朝になってもまだ降っていた。雨が降り続いたら出発を1日延ばすしかないかと考えていたら、9時過ぎになると雨は止んだ。天気予報では翌日の天気は晴れの予報が出ていたので、出発することにしたが、寒気が南下していて変わりやすい天気のようなのだ。鬼怒沼へ向かう急斜面の登りの途中から雪が現れ、沼の近くの緩斜面では一面の雪になった。まだ、結構な積雪量だ。鬼怒沼の湿原では所々木道が現れていたが、雨は降っていないがガスがかかり、残雪は結構多い。分岐から鬼怒沼山の方面に向かうと、東電の巡視避難小屋が現れ、中を見ると泊まれそうで、天気も悪いしテントを張るのをやめて、避難小屋に泊まることにした。夜、起きて外に出ると星が見えるので、天気はよくなると期待したが、朝方になると屋根をたたく雨の音がし出した。



鬼怒沼湿原

5月23日(月)

小屋から目的の黒岩山までは2時間~3時間かかるので、できるだけ早く小屋を出たが、天気はよくない。弱い雨が降っている。とりあえず鬼怒沼山までは行くことにして進んだが、地形的にコンパスで進路を確認して進んでも、目的通りに進むのが難しい。GPSとコンパスで位置を確認しながら鬼怒沼山まで進んだ。北に向かって黒岩山まで行こうかと思って進んだが、雨からみぞれに変わり、さらに雪に変わりますます天候が悪くなる予感がする。朝から雷の音もする。ゴム手袋をしていても冷えて手指の感覚がなくなってしまう。無理をしない方がよいと思い、その先へ行くのを断念し、小屋に戻り荷物をまとめて下山した。ちょうどこのとき、北からの寒気がなだれ込んで天候が不安定になっていた時期でした。天気予報では雨の予報が出ていなくても、当日になると雨になっているようでした。黒岩山へはこれで2回トライしたが登頂できなく、今度は尾瀬側から入ろうかと思っている。

[コースタイム]

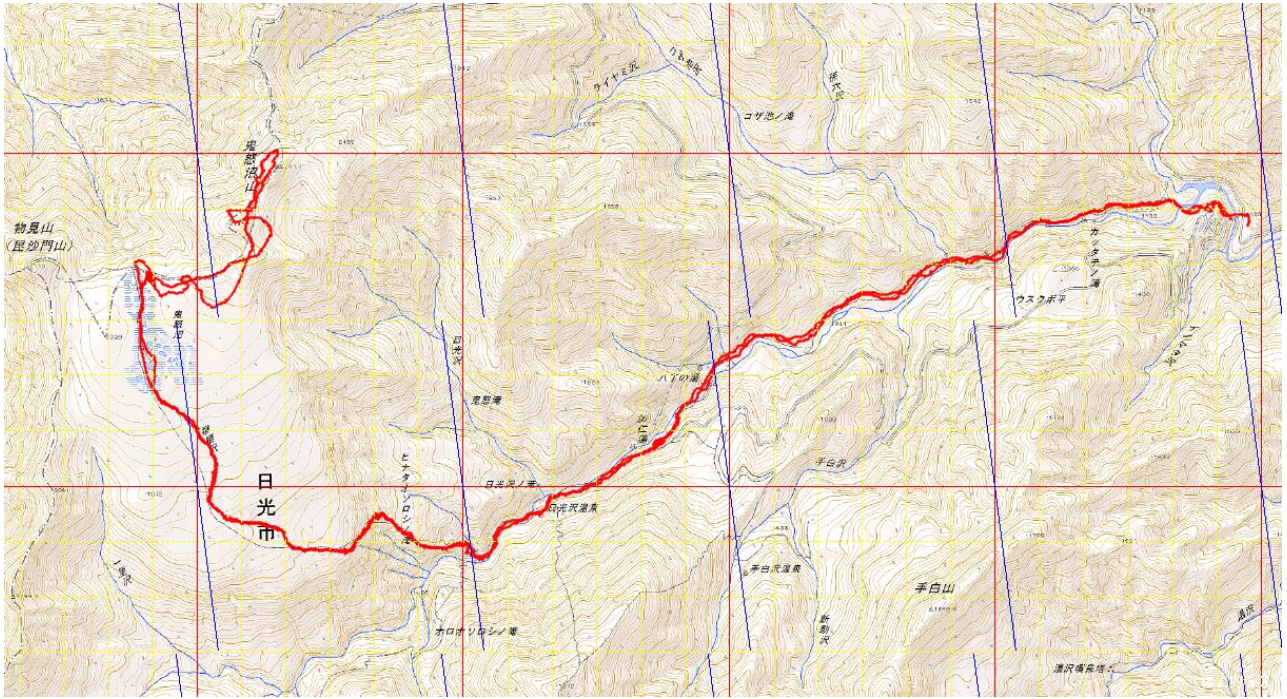
5月22日(日)

女夫淵温泉登山口 9:38→八丁ノ湯 11:13→加仁湯 11:13→日光沢温泉 11:36→ヒナオソロシの滝展望台 13:03→鬼怒沼入口 15:09→避難小屋 15:35

5月23日(月)

避難小屋 5:17→鬼怒沼山 6:53→避難小屋 8:03 9:08→ヒナオソロシの滝展望台 10:34 10:48→日光沢温泉 11:23→加仁湯 11:45→八丁ノ湯 11:52→女夫淵温泉登山口 13:22

(文責：渡辺(敏))



高原山（釈迦ヶ岳） 1795m

5月24(火) 渡辺(敏)

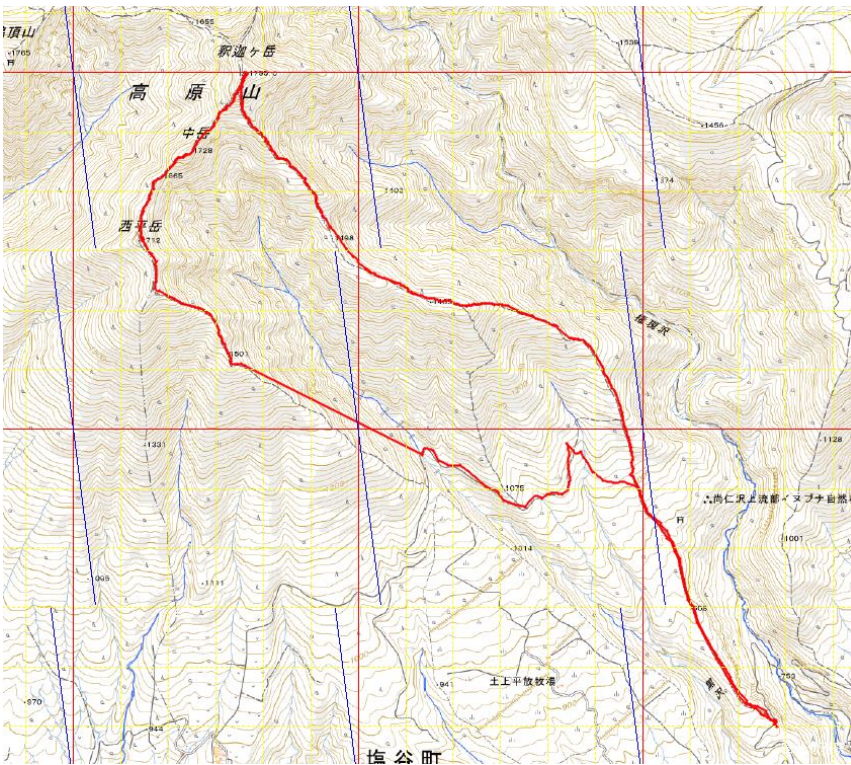


守子登山口

前日、鬼怒沼から下山して女夫淵温泉登山口の駐車場で車中泊して、早朝釈迦ヶ岳守子登山口へ向かった。

登山口には数台駐車可能な駐車スペースがあり、1台駐車してあった。

登山口からはなだらかな笹の下草の疎林の中を進む。まもなく真新しい赤い鳥居のある守子神社に到着。しばらく進んでも下草の景色は同じで、草がなく笹しかない。枯れ木が所々に見られる。鹿を見かけたので、



下草がないのは鹿の食害のせいかなとも考えた。しばらく進み傾斜が急になり釈迦ヶ岳山頂に到着した。前日の天気とは打って変わって、初夏の陽気の晴天で、山頂には十数名の登山者がいた。山頂には釈迦の石像、鳥居やその他いろいろな造形物があちこちにありにぎやかだ。下山途中にはあちこちに石像があり、この山が信仰の対象で住民からあがめられていることがうかがえる。帰りは中岳、西平岳を通して下山した。よい天気でした。



左から鶏頂山、中岳（前）、釈迦ヶ岳（奥）

[コースタイム]

守子登山口 7:14→守子神社 7:44→釈迦ヶ岳山頂 11:02 11:48→中岳 12:16→中平岳 12:50
→守子登山道 14:25→守子登山口 14:48

(文責：渡辺(敏))

5月例会山行「官沢 沢登り」

2022年5月29日(日)

下山田、根本、小林(憲)、山中、青天目、安部、佐藤(春)

- 8:00 遠野オートキャンプ場 集合
- 9:00 沢登り開始
- 10:20 小休憩
- 13:15 往生山 登頂
- 13:30 昼食
- 14:30 下山
- 15:00 駐車場 解散

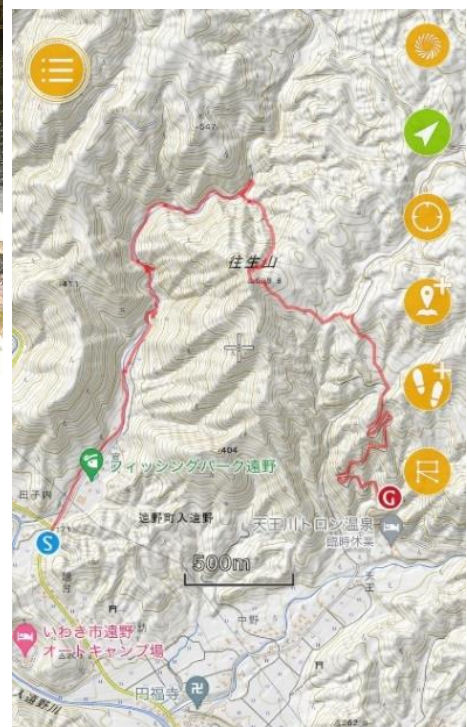
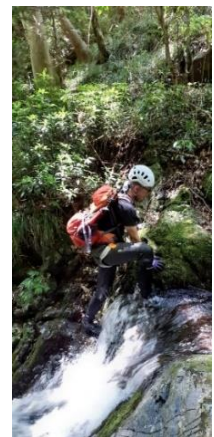


夏日、天候良し。二日前の大雨の影響が流れが激しかった。水温は案外冷たくない。今回は首まで浸ってしまったが、午後にはあらかた乾いていた。着る物やリュックの素材選びの大事さを感じる。

沢登りには山登りとは違った体力が必要な気が。いつもより足首とひざを柔らかく意識した。

帰宅したら体中アザだらけだった。もしかして私だけ？

(文責：佐藤(春))



葉山 (1237m)

2022年6月4日

下山田、秋葉、小林、安部、佐藤(幸)

久しぶりの登山、山形県葉山、ザックに初めてのシュラフ、マットを入れ、朝5時出発。少人数、時間と標高を見て、ゆっくり登山して避難小屋での宿泊。今回の避難小屋は、どんな建物なのだろうか。少し心配はしたものの、シュラフがあればなんとか過ごせるだろうと考え、予定していた人数より1人、キャンセルが出たと聞いたので、2日前に一緒に山行参加させてもらう予定となりました。山行計画書、準備物もメールで送っていただき、久しぶりの山行に少し緊張しながら臨みました。天気も良く、程よい風が吹きコロナで家にいることが多かったため、外の風景がとても清々しいと思いました。ネットで葉山と調べると、けっこうな急斜面が続くということがわかり、気を引き締めて参加しなければと思いました。長井市に3つある(山形百名山の1つ)葉山。標高1237m。長井市の葉山は(朝日連峰の端の山)として、古くから地域の人々に親しまれてきました。3つあるコースの内、白兔コースを歩きました。尾根伝いに山頂まで、直登するコースと記載があり、少し不安を感じましたが、大先輩がいるので大丈夫だろうと参加を決めました。順調に登山し、セミの声を聞きながら、他の登山者に会うこともなく、楽しく話をしたり、花を見ながら登山できました。山頂付近になると急斜面が多く、雪渓もあり通常の登山道と違い、雪解けが進んでいたため、足の膝まで雪の中にはいってしまい、バランスを崩すことが多くなりました。もう少しで山頂ですよ。と言われた時、足をつってしまい、動くことができなくなりました。しばらく休むと歩くことができ、やっと葉山山荘に到着できました。

その後、皆で夕飯を作りました。山荘は、綺麗に整理整頓されており、ストーブに薪を入れ、ご飯をたいたり、親子丼、ポップコーンなどを作って食べたり、美味しいお酒を飲んだりして、楽しく過ごすことができました。

次の日、無事に下山しましたが、一般道路を歩いているとき、体調不良の方が出たので、道路脇で休憩をとっていました。車を停めて、山を見ている人がいたのでお話を伺うと「葉山に登りたいが、もう年をとってしまい、登れないので、山を眺めていた」とのことで、体調不良の方がいるので、車に乗せていただけないかと話したところ、親切に車の駐車場まで、送っていただきました。何のお礼もできないので、私が撮った写真を見せるととても懐かしそうに見てくれました。帰りには、「こんな私でも役に立てて嬉しいです」と言ってくださいました。葉山の方は、優しく、本当に山を大切に思っている人が多いことを実感することができました。その後、皆で温泉に入り、美味しい昼食をとり、家に着くことができました。

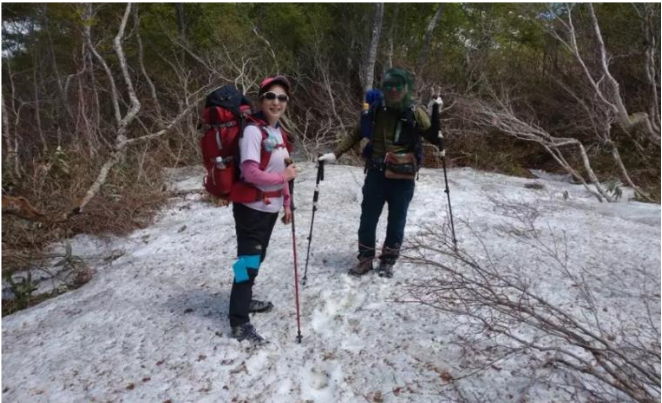
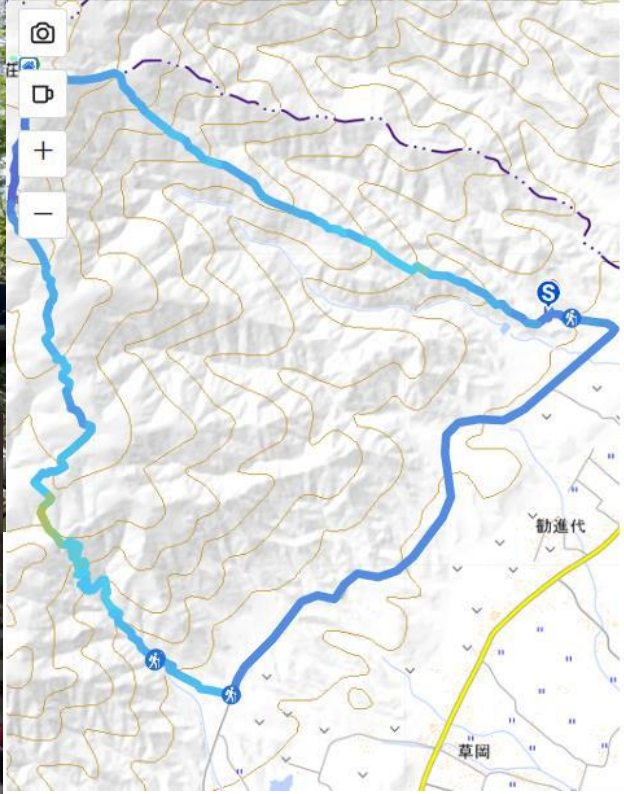
避難小屋にもかわらず、来た人が気持ち良く過ごせるよう整備されていたこと。出会った人との、心あたまる会話。今の世の中、絶景などの目先の評判に囚われがちですが、人を思う大切さ、山を思う大切さを通感できた山行でした。また、この山に皆で来たいと思えた山行でした。この山の登山に参加できて、良かったと思いました。本当にありがとうございました。

(文責：佐藤(幸))

[コースタイム]

初日 8:05 スタート→12:43 葉山 12:54 葉山山荘

翌日 6:50 葉山山荘→9:31 大石大明神・草岡口 9:34→9:44 登山口 9:48
→10:11 登山口 9:48→10:11 白兔口 10:13→10:20 ゴール



磐梯山（1816m）縦断

2022年6月11日(土) 太、菊地、西、外1

菊地会員の友人に車の協力をいただき、裏磐梯スキー場の川上登山口から登って、下山は猪苗代リゾートスキー場の翁島登山口へと、磐梯山を南北に縦断した。

朝5時前に市内を発ち、リゾートスキー場に車1台を置き、裏磐梯スキー場の駐車場（901m）に到着したのが、7時過ぎ。途中、川上登山口にはトイレがないので、裏磐梯ビジターセンターに立ち寄った。桧原湖畔からスキー場への道は荒れているので注意。天気は曇りでまずまず。

グレンデ上部で分岐をイエローフォール側へ樹林を進み、急登の前に開けた場所でひと休み。再び樹林の中を進み、山菜が豊富で道の両側が沢の頭なので獣が出そうと話をしていると、近くの藪で唸り声。クマの威嚇だったらしい。急登からイワカガミが見られ、櫛ヶ峰への分岐、尾根の手前は群落になっていた。沼ノ平への分岐を過ぎ、黄金清水まではバンダイクワガタ、アズマギク、ミヤマキンバイなどの花が随所に見られ、ツツジも少し。三合目の天狗岩を過ぎ、弘法清水（四合目 1625m）では、ミヤマオダマキを眺めながら、小屋のきのこ汁やビールでひと休み。山頂（1816m）は多少ガスがかかるものの、北は裏磐梯に桧原湖、遠くは飯豊山。西は猫魔ヶ岳、雄国山。南は猪苗代湖に翁島。東は櫛ヶ峰、川桁山。大きな展望が得られた。石祠や山名板前で集合写真を撮り、頂上小屋の少し下で昼食。

下山は、ザレた急な坂を麓へ飛び込むイメージ。下る途中に岩場、ロープ、ぬかるみなどあったが、幸いに雨には遭わずリゾートスキー場へと下りる。ゴンドラが運行していないので、グレンデ東側の樹林を長々と下り、翁島登山口（804m）に下りた。

[コースタイム]

7：25 裏磐梯スキー場→10：10 天狗岩→10：15 弘法清水→11：10 山頂→14：20 翁島登山口

(文責：太)



6月登山教室 五色沼散策

2022年6月12日(日)

教室生9名 山岳会 17名

6月登山教室は磐梯山縦走の予定でしたが、天候不良により五色沼散策に変更して実施されました。マイクロバス1台、会員の方の車2台に分乗して六時に合同庁舎を出発。

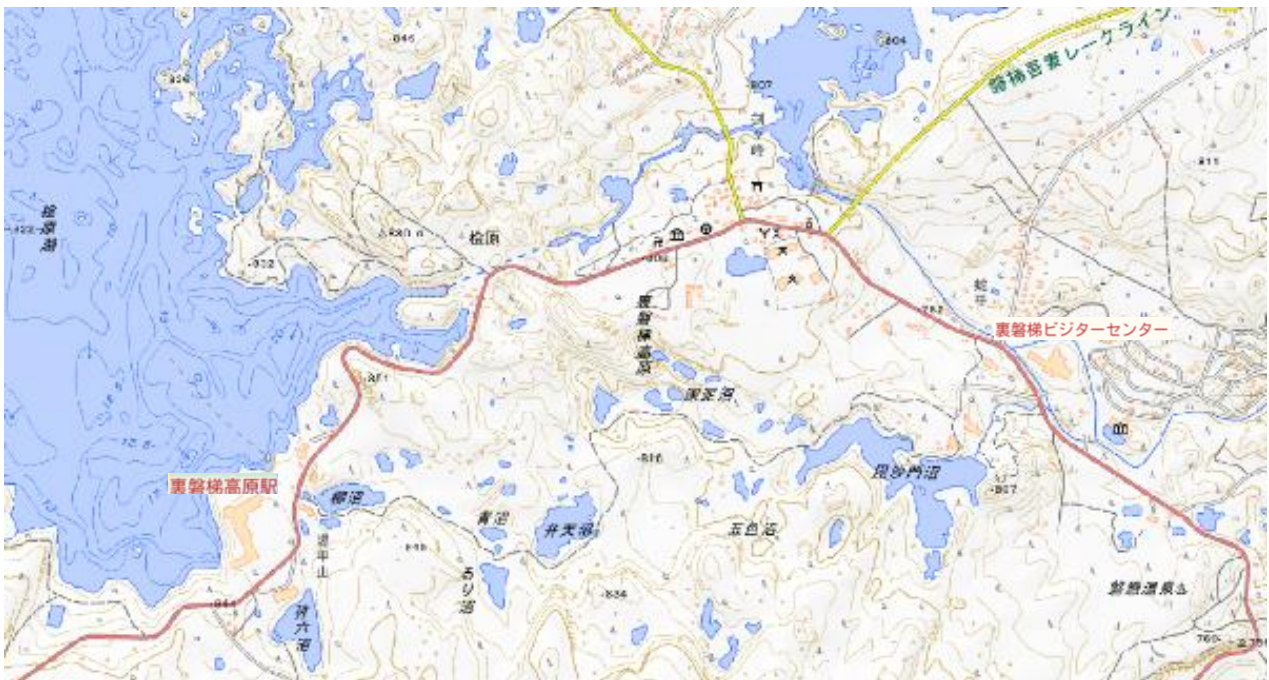
八方台登山口で場所取りをしてくださっていた会長と合流したのち、裏磐梯高原駅側の駐車場に移動して散策開始です。途中、小雨が降る場面もありましたが、花のレクチャーを受けつつ、ゆっくりと進みます。雨に濡れた樹々が生き生きとし、晴れの日とはまた一味違った散策を楽しみました。

散策後は昼食ののち裏磐梯ビジターセンターに立ち寄り勉強タイム。磐梯山の噴火前のジオラマが興味深かったです。

(文責：須藤)

[コースタイム]

裏磐梯高原駅駐車場 9:00→裏磐梯ビジターセンター 11:30



不忘山（1705m）

2022年6月14日(火)

秋葉、赤塚(将)、赤塚(園)、国井、菊地、山中

登山口がある白石スキー場に到着前にはすでに雲の中になってしまい、周りはガスっていました。スキー場駐車場への道路もガスで分かりにくく、ナビ頼りによろやく到着しました。それでも駐車場には先客の車が2台駐車していました。レインウェアに着替えますが、テンションは下がり気味、一人で来ていたら引き返していたことでしょう。



登山口からは、しばらくはスキー場をガスの中を登ります。スキー場を抜けて白石女子高山小屋跡手前からは山道になります。登山道は比較的整備されていました。登山道のこのあたりでもレンゲツツジなどの花が咲いていました。弘法清水手前あたりで周りが明るくなって来てガスを抜けることができました。振り向くと雲海が広がっていました。そこからはテンションも上がり、さらには各種の花が咲いていました。チングルマ、ミツバオーレン、サラサドウダンツツジ等々、そして、目当てのハクサンイチゲを発見しました。ミネザクラもまだ咲いていました。



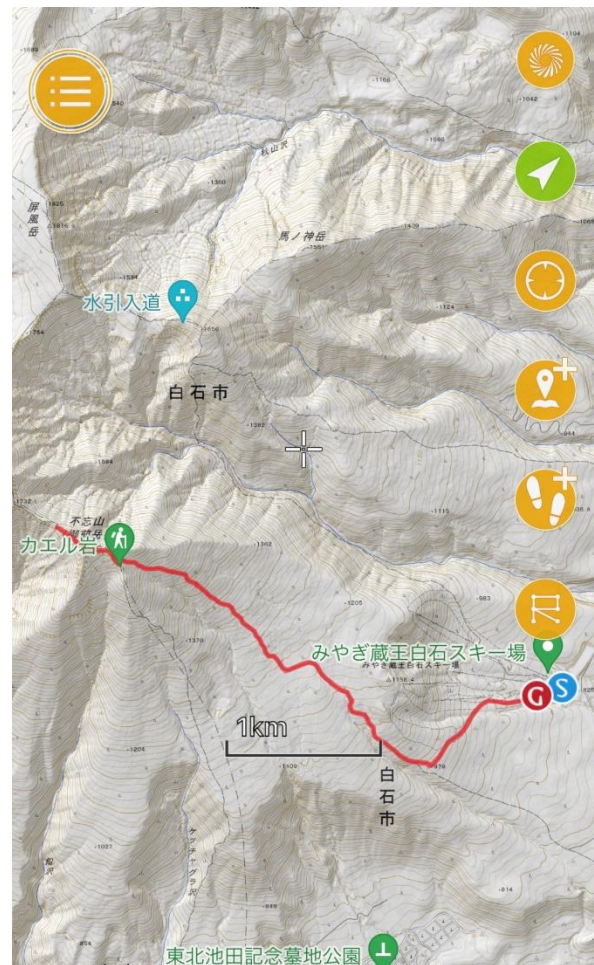
カエル岩に到着しましたが、どこがカエル??と思いましたが見る角度を変えるとまさしくカエルでした！カエル岩からは頂上はすぐです。山頂では昼食を取りました。山頂から南屏風岳へ稜線を少し行くとそこには高山植物が咲き乱れていました。ハクサンイチゲはもちろんミヤマオダマキ、ミヤマキンバイ、ユキワリコザクラほかたくさんのお花たちでした。周りの景色には雪渓も残っていて眺望も楽しめました。今回はこのお花たち会えたことで満足したので、ここから引き返すことにしました。

登り始めはガスでしたが、雲海を抜けると青空の絶好の天気になり、花も愛でたし、眺望も楽しめたし、帰りには温泉にも入れたし、贅沢な山行になりました。

[コースタイム]

白石スキー場登山道入口 7:35 → 白石女子高山小屋跡 8:05 → 弘法清水 9:40
→ カエル岩 10:45 → 不忘山山頂 11:00 (昼食・花散策) 12:00 → カエル岩 12:15
→ 白石女子高山小屋跡 14:05 → 白石スキー場登山道入口 14:30

(文責：山中)



赤城山（地藏岳、長七郎山、小地藏岳）

2022年6月18日（土）

太、柏村、山縣、菊地、二瓶

6月生まれ会員3名の誕生会山行を計画し、初日に日本百名山「赤城山」を登った。参加メンバー殆どが最高峰の黒檜山（1828m）と駒ケ岳（1685m）を登頂済みなので、地藏岳に登った。

朝5時に市内を出発。北関東道・伊勢崎ICで高速を下り、赤城公園ビジターセンターの駐車場に到着したのが9時頃。開館していたセンターでトイレを利用し、舗装路を登山口へ向かう。

登山口から樹林の急斜面を直登し、少し開けた分岐の広場で小休憩。その先は徐々に樹木が低くなり、高天原付近にはツツジが咲いていた。中継アンテナが林立する地藏岳の頂上には黒檜山と駒ケ岳、大沼の展望を楽しむ多くのハイカーがいた。山頂標柱や一等三角点（点名「赤城山」1674m）標石で写真撮影、休憩後に八丁峠に下る。峠から小沼へ下り、湖畔を少し歩いて長七郎山（1579m）に登る。小地藏岳（1574m）に立ち寄りながら旧ケーブルカー山頂駅へと下山。ビールなど飲んでひと息つき、舗装路を歩いてビジターセンター駐車場に戻った。

[コースタイム]

9：15 駐車場→9：25 登山口→10：15 高天原→10：35 地藏岳→11：35 八丁峠→11：45 小沼→12：15 長七郎山→12：35 小地藏岳→13：15 山頂駅・覚満淵→13：35 駐車場

（文責：太）



写真の上段は地藏岳山頂、中段は黒檜山と大沼湖畔の赤城神社、下段は長七郎山から見た地藏岳

蒲生岳 (828m)

2022年6月19日(日)

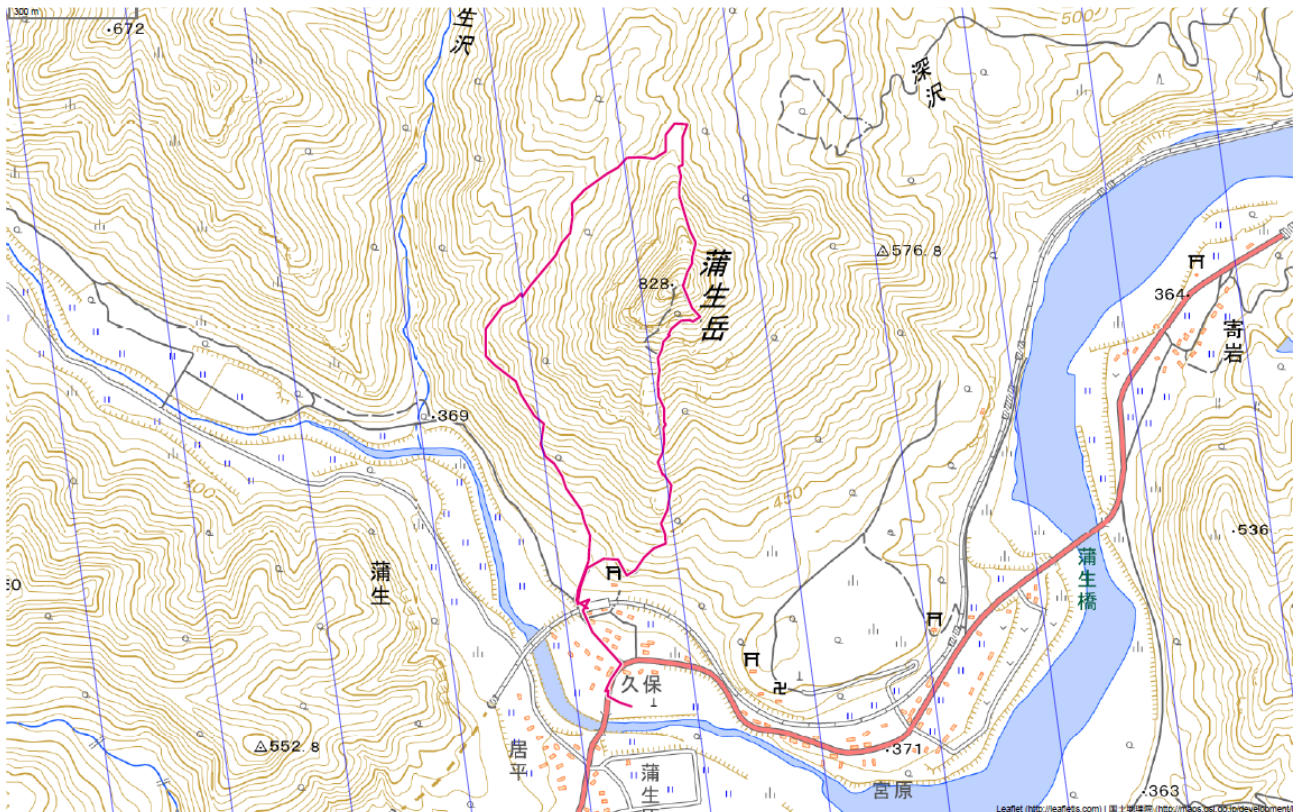
青天目、西(重)、山中、安部、佐藤(春)、国井

会津のマッターホルン蒲生岳に行ってきました。午前5時に水石トンネル駐車場に集合して、久保登山口駐車場へ向かいました。駐車場に到着すると町内放送で「〇〇町道で熊が目撃されました。」との放送があり、びくびくしながら登山の準備をして出発です。歩いて行くと雨が降ってきたので、会津蒲生駅駅舎で雨宿りと思いましたが、只見線は電車が走ってないので、駅舎は戸閉されており、軒先で雨宿りです。

いよいよ登山開始。下から見ると地上から一気にせり上がり急登が予想されます。登山口から分岐を右に入り、少し緩やかな登山道を歩いていくと、直ぐに急な登りになります。登山道わきの木々には、毛虫がいたるところに、這いまわっています。夫婦松を過ぎ、いよいよ岩場の登りに入る。ロープや鎖を登り、「鼻毛通し」、慎重に進んで行かないと滑落する危険性のある場所が続く。この日は、気温が上がり、汗が噴き出る。息が切れる。我慢して慎重に山頂へ。ここにも多くの毛虫が這いまわっている。この時期は、登るのを考えてもいいかもしれない。

山頂で暫く休む。帰りは、北壁ルート。少し歩くと急峻な登山道、鎖場の連続、鎖から手を離さないように慎重におりて行く。登りがここでなくよかった。急峻な岩場を過ぎるとブナの林となる。道の脇に動物のフン、朝の不安がよみかえる。熊の遭遇にドキドキしながら先に進む。小さい石がゴロゴロして歩きにくい。結構帰りの下りも長かった。結局、熊には合わなかった。

予定では、近くの要害山も行くつもりでしたが、今回は止めにしました。お昼を食べ、風呂に入っていわきに戻ってきました。一緒に行った皆さんありがとうございました。





[コースタイム]

8:00久保登山口駐車場-8:15久保登山口-8:50夫婦松-9:15分岐- 9:34鼻毛通し-10:00山頂
10:10-11:00ブナ交流広場-11:20風穴-12:00久保登山口

(文責：国井)

武尊山 (2158m)

2022年6月19日(日)

太、柏村、山縣、菊地、二瓶

6月誕生会山行の2日目に、日本百名山、新・花の百名山である上州「武尊山」に登った。

前泊した「群馬ほうだいぎキャンプ場」を発ち、舗装路を車で1.7km奥の「裏見ノ滝」駐車場に向かう。付近に武尊神社があり、公衆トイレ(水洗式)、登山ポストもある。駐車してさらに1.8km奥の武尊沢林道終点駐車場へ砂利道を歩いて行くことにする。天気は薄曇り。

林道終点の先も荒れた砂利道だが、分岐で左折して手小屋沢避難小屋のある尾根へ登っていく。尾根までは樹林の急登。尾根上の分岐を右折した先、左側の沢にカマボコ型の金属製避難小屋がある。小屋には寄らず、先を急ぐ。尾根の樹林を登った先にクサリ場があり、登ると雪渓が少し。雪渓の先もクサリ場で、越えた先はシャクナゲやミネザクラが咲く緩やかな道。足下にはツバメオモトも。尾根を登り切ると、全周遮る物のない大展望が待つ。山頂北側に見える至仏山が近い。赤城や榛名、谷川など群馬を代表する山々がぐるりと見える。富士山が見える日もあるらしい。

下山は、折り返さずに剣ヶ峰山の中腹を下るコースで戻ることにする。武尊を振り返りながら長々と尾根を歩き、剣ヶ峰山分岐からの急激な下りを過ぎた頃、雷鳴が聞こえ、雨に遭った。先に下山した者が車を回し、林道終点駐車場からは車で下山となった。

[コースタイム]

5:50 滝駐車場→林道終点駐車場→8:10 手小屋沢避難小屋→10:50 武尊山山頂
→12:30 剣ヶ峰山分岐→15:50 林道終点駐車場

(文責:太)



Startが裏見ノ滝駐車場、Goalが武尊沢林道終点。写真中段が武尊山、下段が剣ヶ峰山(2020m)